

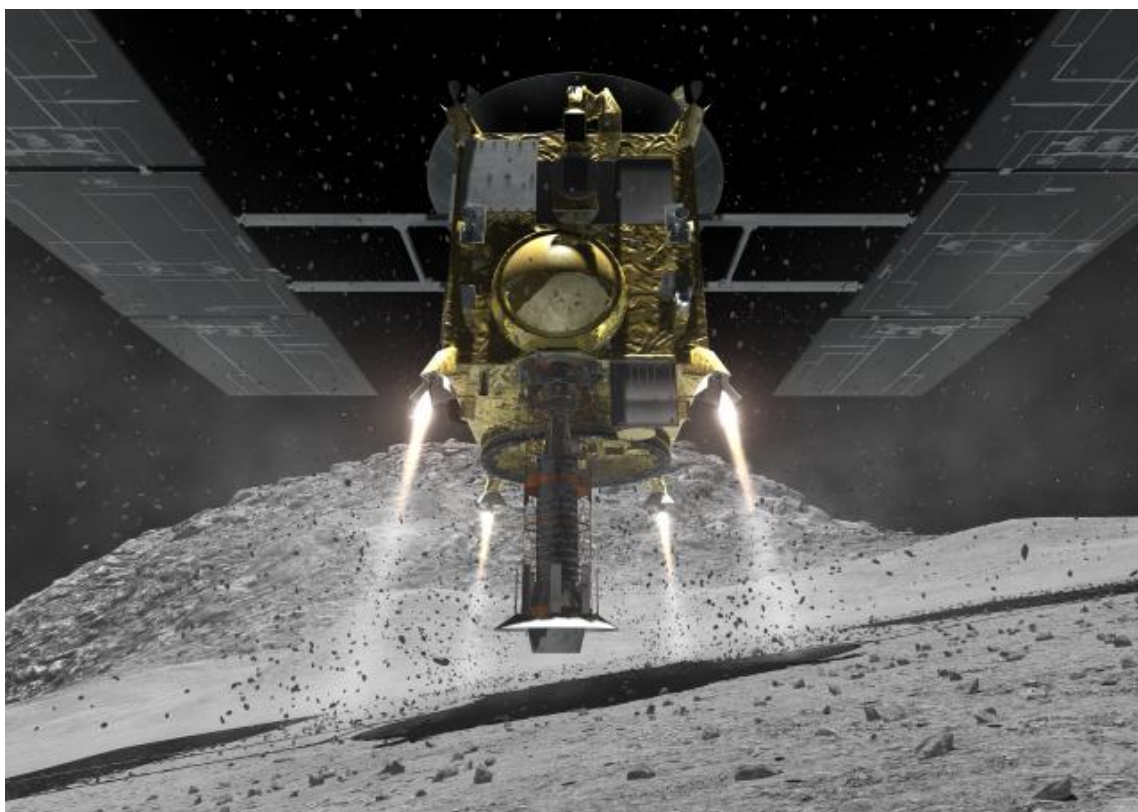
大阪市立科学館オリジナル作品
全天周映像・宇宙ドキュメンタリー

HAYABUSA

BACK TO THE EARTH

はやぶさ・バックトゥジアース

関係者向け完成試写会のご案内　－ 3月26日（木）午後6時30分－



(C)「はやぶさ」大型映像制作委員会 2009

大阪市立科学館では、2009年4月1日(水)より1年間、全天周映像HAYABUSA　－BACK TO THE EARTH　－（はやぶさ）（43分間）を、開館日の午後1時より上映します。HAYABUSAは、科学館を運営する(財)大阪科学振興協会がJAXA、(株)リブラ、(有)ライブとともに制作したオリジナルの宇宙ドキュメンタリー作品です。これに先立ち、日本天文学会開催期間中の3月26日午後6時30分より試写会を開催いたしますのでお知らせします。参加には招待ハガキが必要です。次ページ要項をごらんください。

全天周映像 HAYABUSA は、現在活動中の日本の無人小惑星探査機「はやぶさ」の、打ち上げから、予定される帰還までを、全編CGで描いた宇宙ドキュメンタリーです。世界で初めて「月」以外の天体「小惑星イトカワ」に着陸し「小惑星の石」を収集、帰還するという未踏のプロジェクは、まさに現代の探検。世界最大級のドームスクリーンいっぱいに広がる全天周映像の、圧倒的な臨場感が、見る人を、数億キロメートルの彼方で繰り広げられている本物の宇宙ドラマの主人公にします。制作「はやぶさ」大型映像制作委員会、2009年作品。

HAYABUSA関係者向け試写会要項

関係者向け試写会 3月26日(土) 18時30分～ 招待者・プレス

日時 平成21年3月26日(木) 18:30～19:30

場所 大阪市立科学館 プラネタリウムホール (大阪市北区中之島4-2-1)

内容 18:00 開場・受付開始

18:30 みどころ紹介

18:35 HAYABUSA 試写会(43分間)

出演 中井次長(大阪市立科学館)

対象 招待客(招待ハガキを持っている方)、プレス関係者

※招待ハガキは、招待送付するほか、日本天文学会展示ブース、ジュニアセッション会場で配布します

注意 試写会の時間、科学館は閉館しています。ほかの展示場・プラネタリウムなどはごらんいただけません。

会場案内(大阪市立科学館 <http://www.sci-museum.jp/> PC・携帯とも)

交通

大阪府立大学から(乗車30分間、徒歩20分間)

地下鉄御堂筋線上り(梅田方面)→「大国町(だいこくちょう)」乗り換え(ホーム向かい側)
→地下鉄四つ橋線「肥後橋」下車7分

新大阪から(乗車7～10分間、徒歩15分間)

JR東海道線・下り(三宮方面・全電車OK)→「大阪」駅乗り換え
→JR環状線内回り「福島」下車13分

地下鉄御堂筋線・下り→「淀屋橋」駅徒歩15分

関西空港・伊丹空港

空港バス 梅田周辺から徒歩15～20分 ハービス大阪・大阪マルビル(西梅田)がおすすめ



HAYABUSA

BACK TO THE EARTH

作品紹介

ストーリー：

2003年5月、日本は小惑星探査機「はやぶさ」を打ち上げた。その使命は、小惑星に着陸し石を採取して地球に持ち帰ること。この人類史上初の試みを達成すべく、「はやぶさ」は目的地「小惑星イトカワ」に向け長い旅にでた。

「はやぶさ」が持ち帰ろうとしている小惑星の石は、太陽系誕生の秘密をとくカギを握っている。地球が、そして太陽系が誕生したのは46億年前。だが、その時代の石は、地球には存在しない。一方、小惑星には太陽系誕生時の記録が残っていると考えられているためだ。

20億kmの旅のすえ、2005年11月、「はやぶさ」はよいよ「イトカワ」への着陸を敢行した。しかし、未知の世界への着陸は思い通りにはいかない。機体にもダメージの疑いが・・・しかし、このままで地球に帰るわけにはいかない。態勢を立て直し、2度目の着陸に挑戦。成功したかに見えた直後、「はやぶさ」を最大の危機が襲う。「はやぶさ」は2010年、無事に地球帰還を果たせるのか。

数々の困難に立ち向かい、太陽系誕生の謎をさぐる「はやぶさ」の波乱と感動に満ちた探検の旅が、臨場感あふれるCGでドームいっぱいに広がります。

タイトル：HAYABUSA -BACK TO THE EARTH-

※英文名が正式タイトルです。読みは、はやぶさ バックトゥジアース

ジャンル：ドキュメンタリー

フォーマット：4K ドームマスター（全天周デジタル映像）

上映時間：43分間 **制作年：**2009年

配給：株式会社リブラ

スタッフ&キャスト：

〔総合プロデューサー〕 飯山青海（財団法人大阪科学振興協会）

〔プロデューサー〕 上坂浩光（有限会社ライブ）・田部一志（株式会社リブラ）

〔監督〕 上坂浩光

〔シナリオ〕 高島規子（株式会社リブラ）・上坂浩光

〔ナレーター〕 篠田三郎（田上事務所）

〔音楽プロデューサー〕 安念渡馬（有限会社エンブリオ）

〔作曲〕 酒井義久

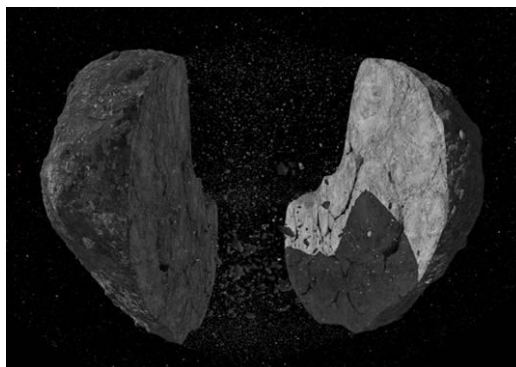
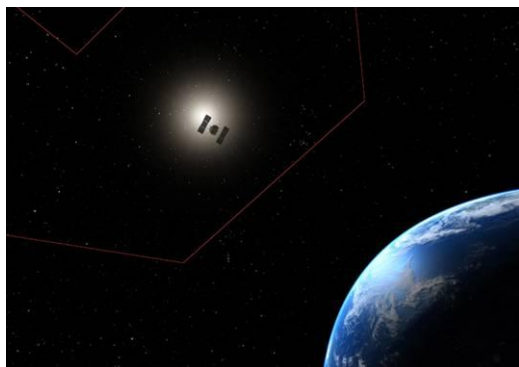
〔監修〕（財）大阪科学振興協会、（独）宇宙航空研究開発機構

主題歌：「宙よ（そらよ）」 作詞：上坂浩光・作曲：酒井義久・歌：Chie Umezawa

企画・制作：「はやぶさ」大型映像制作委員会

（財）大阪科学振興協会、（独）宇宙航空研究開発機構、（株）リブラ、（有）ライブ

WEBサイト：<http://hayabusa-movie.jp/>



参考

全天周映像

ドームスクリーン全体に、動画を映写する映像作品。頭上全体を映像が覆うため、大変な迫力があり、映像の中に入り込むような感覚が味わえる。全天周映像には、1970年の大阪万博で公開されたIMAX社のオムニマックスに代表される、フィルム式の大型映画と、コンピュータにより映像をプロジェクターで送出するデジタルフルドームがある。

デジタル式は解像度や明るさ、鮮明さにおいてフィルム式に及ばない。一方で、設備費用やソフトの制作コストや媒体の価格など経済面と、取り扱いの容易さにおいて上回る。そして、近年画質なども急速に改善してきた。

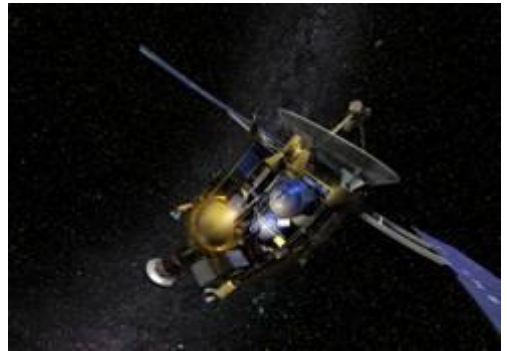
単独の全天周映像シアターのほか、プラネタリウム用のドームスクリーンを利用できるので、プラネタリウムに設置されている場合も多い。大阪市立科学館もこのケースで、世界最大級の26.5mドームに上映する。また、プラネタリウムに設置し、単独の映像として上映するほか、学芸員がライブで行うプラネタリウム投影の演出にも利用している。

今回の全天周映像 HAYABUSA は、デジタル式の全天周映像であり、単独の映像作品としての上映となる。さらに、全国に配給を行う予定である。

小惑星探査機「はやぶさ」

2003年5月に打ち上げられた、日本初の小惑星探査機。コードネームはMUSES-C。MUSESは、技術試験を意味する符号で、新しい技術をテストするための挑戦的な探査機である。試験目標として、星の王子さまのふるさとのような小惑星イトカワの探査が選ばれた。試験はイトカワに着地し、サンプルを採取、地球に持ち帰るまでを行う。成功すれば、技術的成功のみならず、月以外の石を地球に持ち帰る、はじめての例となる。また「はやぶさ」には、公募された88万人の名前が刻み込まれており、その名前と思いをのせて宇宙を飛んだ。

はやぶさの重量は500kgで、気象衛星ひまわりの2.4トン、スペースシャトルの70トンに比べ、小さな探査機である。しかし、はやぶさでは、数々の挑戦が行われている。



第1は、電気推進（イオンエンジン）である。通常、ロケットは火薬や燃料を燃焼させ、その反動で進む。パワーは絶大だが、燃焼できる時間は数分間と短く、いったん軌道を決めたら、変更は困難である。また、パワーに耐えられる強靱な船体が必要である。一方で、電気推進は、電気力でガスを噴出する。パワーは小さいが、長時間エンジンを稼働させることができる。実際「はやぶさ」は、数万時間というエンジン稼働を記録し、いまま更新中である。

第2は、全自動制御である。はるか数千万キロメートル彼方では、指令が届くのに数分かかる。着陸は探査機が自ら考え、判断することが求められる。

第3は、小惑星の精密探査である。これの結果は、世界的な科学雑誌サイエンスを一冊特集にするほどの成果をあげた。

第4は、小惑星の着陸と離陸である。着陸は、米国のニア・シューメイカー探査機に先を越されたが、離陸は史上初であり、これを成功させている。

第5は、小惑星サンプルの採取。「星の王子さまのふるさと」の石をとって帰ること。

第6は、地球に帰還し、大気圏にカプセルを投入、サンプルを無事回収することである。

以上のうち、ひとつでもなしえれば、前人未踏である。しかも、はやぶさはすでに、1～4までを成功させている。ここまでで、100点満点の250点を獲得とっていい。5、6がなされればさらに成果があがる。

はやぶさは、2010年6月、サンプルが入っていると期待されるカプセルを分離し、オーストラリア中部のウーメラ砂漠に軟着陸させる。一方、本体は地球大気圏に突入し、分解し燃え尽きる予定。

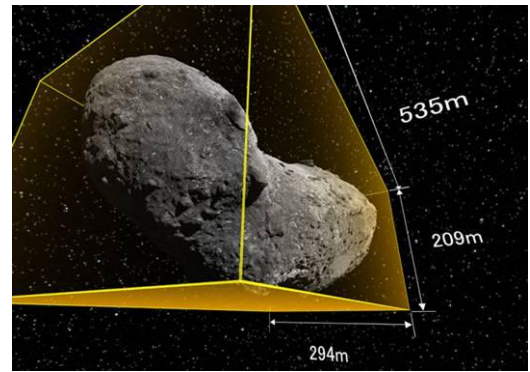
参考：JAXA 小惑星探査機はやぶさ WEB <http://www.isas.ac.jp/j/enterp/missions/hayabusa/>

小惑星「イトカワ」

太陽のまわり、地球と火星の軌道を横切りながらめぐり、直径500mほどの小さな天体。表面の重力は地球の10万分の1とほかに小さい。

イトカワがどのような姿をしているのか、事前にはまったくわからなかった。はやぶさの接近で見られたイトカワの姿は、多数の岩がゴロゴロする異様な光景であった。

イトカワは、米国のリニアチームによって1998年に発見され、小惑星1998 SF₃₆の符号がついた。その後正式名称として小惑星名前は、ペンシルロケットの成功などで、日本のロケット開発の父といわれる、糸川英夫博士にちなむ。さらに、はやぶさは、獲物をとらえて帰還する猛禽類のイメージとともに、糸川英夫が設計した隼戦闘機にもちなんでいる。



ナレーター 篠田三郎



1948年12月5日生まれ。東京都出身。雁（大映映画）でデビューし、以来、舞台、映画、テレビなどで活躍する。宇宙ものとしては、ウルトラマンタロウの主人公である東光太郎役で有名。今回は、ナレーションで参加。田上事務所所属。